

1 位置・自然環境

札幌都心から南に約26km、札幌市南区に位置する定山溪は、支笏洞爺国立公園に指定されています。定山溪は、札幌岳や無意根山をはじめとした標高1,000m級の山々に囲まれており、エリアの中央には、札幌の母なる川である豊平川が流れています。

定山溪を囲む山々や豊かな森に降る雨雪により培われた定山溪温泉は、豊平川の川岸や川底の岩盤の割れ目から湧き出ており、溪流沿いにはホテル・旅館が数多く軒を連ね、温泉街を形成しています。

また、定山溪には、定山溪ダムのさっぽろ湖や、豊平峡ダムの定山湖があり、ダム湖とそれを囲む雄大な自然が織りなす美しい景観を楽しむことができます。



2 交通アクセス

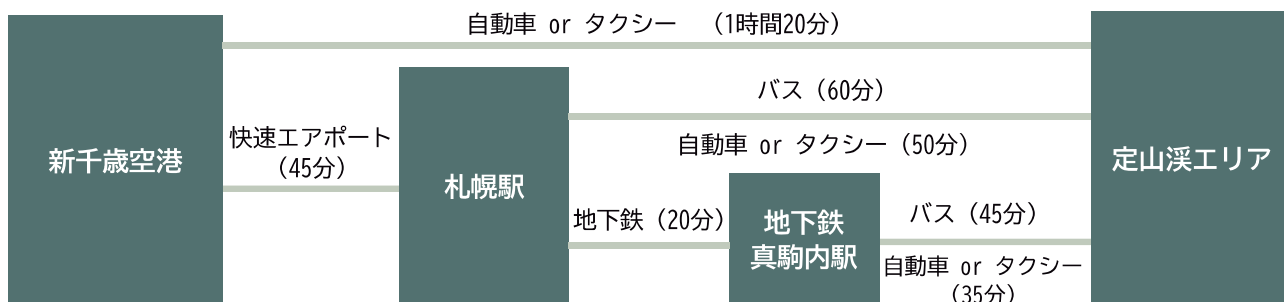
定山溪は、札幌都心と国道230号で結ばれており、自動車を利用して約1時間でアクセスすることができます。

自動車以外の移動手段としては、路線バス（じょうてつバス）が札幌駅及び地下鉄真駒内駅と定山溪の間を運行しているほか、札幌市街地と定山溪を結ぶ直行バス「かっぱライナー」（じょうてつバス）、札幌駅と定山溪及び洞爺湖温泉を結ぶ都市間バス（道南バス）が運行しています。

定山溪エリアにおける路線バスの運行状況について、コロナ禍前後から現在（令和7年度）までを比較した結果、運転手不足の影響もあり札幌駅から定山溪までの路線バスは減少しています。

このような状況に対応するため、令和7年度（2025年度）のダイヤ改正においては、運行リソースの最適化を目的とした再編が行われ、札幌駅発着の一般路線バスを朝夕の通勤・通学時間帯等を除き削減する一方で、地下鉄真駒内駅～定山溪間の路線バスを大幅に増便し、地下鉄との乗り継ぎ利便性を高める運行形態への転換が進められています。

定山溪までの移動手段及び所要時間

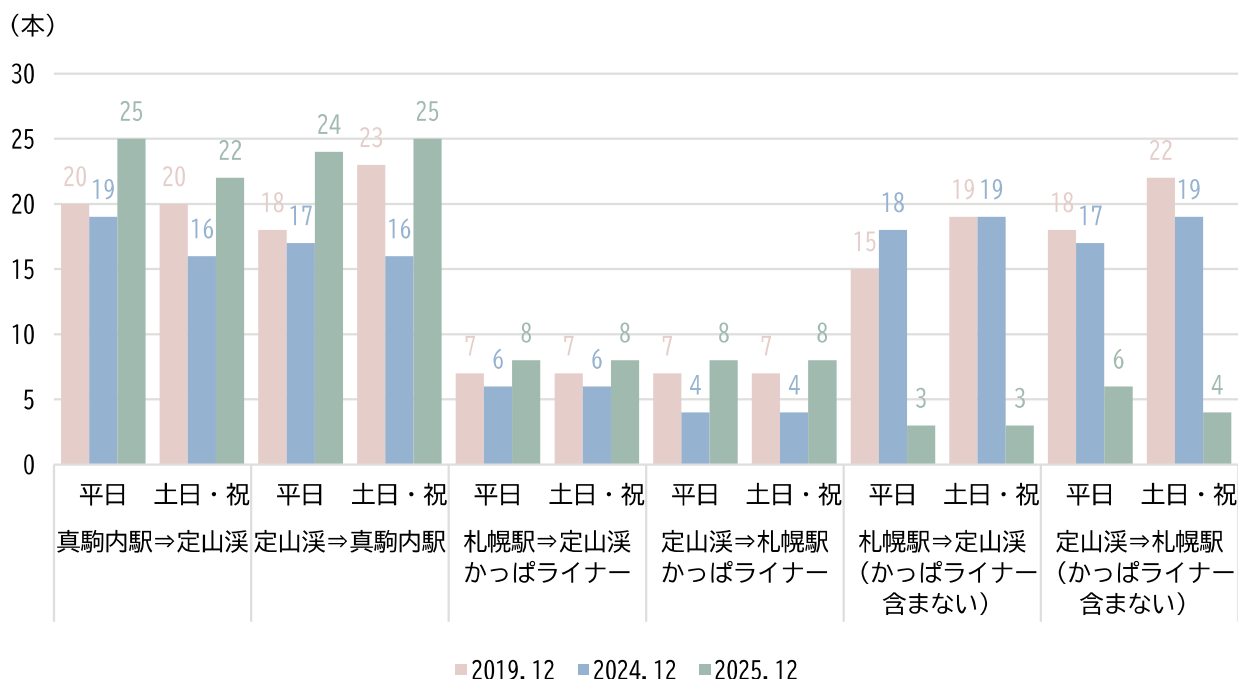


定山溪までのバスの運行状況（令和7年（2025年）12月時点）

路線バス・都市間バス・直通バス		経路	平日	土日	時間
路線バス（じょうてつバス）	札幌駅発着	札幌駅→小金湯→定山溪	3便		約80分
		定山溪→小金湯→札幌駅	6便	4便	
	真駒内駅発着	真駒内駅→小金湯→定山溪	25便	22便	約45分
		定山溪→小金湯→真駒内駅	24便	25便	
都市間バス（道南バス）		札幌駅→定山溪→洞爺湖温泉	4便		約60分
		洞爺湖温泉→定山溪→札幌駅	4便		
かっぱライナー号（じょうてつバス）		札幌駅 → 定山溪	8便		約60分
		定山溪 → 札幌駅	8便		

出典：じょうてつバス HP、道南バス HP、ゆこゆこ HP

コロナ禍前後における札幌駅または真駒内駅～定山溪の路線バスの運行状況



出典：じょうてつバス時刻表（令和元年（2019年）年12月時点、令和6年（2024年）12月時点、令和7年（2025年）12月時点）

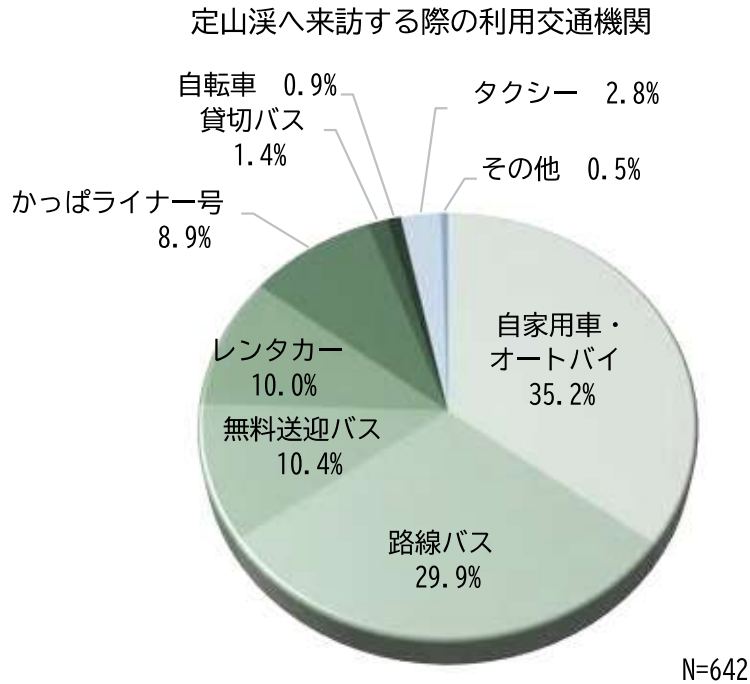
定山溪では、無料送迎バスを運行している宿泊施設もあり、札幌駅、大通または真駒内駅などと各宿泊施設を結ぶ移動手段となっています。

定山溪の各宿泊施設の無料送迎バスの概要（令和6年（2024年）5月時点）

日帰り入浴 無料送迎バス		経路	運行日	本数	駅発時刻
豊平峡温泉	先着順、予約不可	地下鉄真駒内駅 → 豊平峡温泉	毎日運行	往復1便	真駒内中学校（フェンス周辺）
湯の花 定山溪殿		地下鉄真駒内駅 → 湯の花	毎日運行	往復3便	真駒内駅
ホテル無料送迎バス		経路	運行日	本数	送迎バス停留所発時刻
定山溪ビューホテル	宿泊者専用	札幌駅 → ホテル	毎日運行	往復1便	札幌駅北口
定山溪ホテル	宿泊者専用	札幌駅 → ホテル	毎日運行	往復1便	札幌駅北口
グランドプリッセンホテル定山溪 奥定山溪温泉 佳松御苑	宿泊者専用	札幌駅 → プリッセンホテル → 佳松御苑	毎日運行	往復1便	札幌駅北口
定山溪 ゆらく草庵	宿泊者専用	札幌駅 → ホテル	毎日運行	往復1便	札幌駅北口
定山溪万世閣ホテルミリオオーネ	宿泊者専用	札幌駅 → ホテル	毎日運行	往復1便	札幌駅北口
章月グランドホテル※	宿泊者専用	札幌駅 → ホテル	毎日運行	往復1便	札幌駅北口
ホテル鹿の湯	宿泊者専用	札幌駅 → ホテル	毎日運行	往復1便	札幌駅北口
花もみじ	宿泊者専用	札幌駅 → ホテル	毎日運行	往復1便	札幌駅北口
第一寶亭留 翠山亭	宿泊者専用	札幌駅 → ホテル	毎日運行	往路3便 復路2便	大通り西5丁目
翠山亭倶楽部定山溪	宿泊者専用	札幌駅 → ホテル	毎日運行	往路2便 復路2便	大通り西5丁目
女性のための宿 翠蝶館	宿泊者専用	札幌駅 → ホテル	毎日運行	往路2便 復路2便	大通り西5丁目
厨翠山	宿泊者専用	札幌駅 → ホテル	毎日運行	往路2便 復路2便	大通り西5丁目
翠巖	宿泊者専用	札幌駅 → ホテル	毎日運行	往復1便	大通り西5丁目
旅籠屋 定山溪商店	宿泊者専用	札幌駅 → ホテル	毎日運行	往復1便	大通り西5丁目
ぬくもりの宿ふる川	宿泊者専用	札幌駅 → ホテル	毎日運行	往復1便	大通り西1丁目
定山溪 鶴雅リゾートスパ 森の舘	宿泊者専用	地下鉄真駒内駅 → ホテル	毎日運行	往復3便	真駒内中学校グランド横
湯元小金湯	宿泊・日帰り	地下鉄真駒内駅 → ホテル	毎日運行	往復4便	真駒内駅

※「章月グランドホテル」2024/7/1宿泊分から有料、片道500円/人、ホテルへの電話予約、公式ホームページからの予約の場合は無料

定山溪に訪れた方の主な移動手段は、「自家用車・オートバイ」が最も多く、次いで「路線バス」、「無料送迎バス」となっています。



出典：「令和6年度（2024年度）（秋・冬）定山溪地区観光客動態調査（札幌市）」
※令和6年（2024年）10月25日・26日及び令和7年（2025年）2月9日・10日に、定山溪に訪れた観光客への聞き取り調査及び宿泊施設利用者へのアンケート調査の結果である。

3 歴史

定山溪の歴史は古く、慶応2年（1866年）に修験僧・美泉定山（みいずみじょうざん）がアイヌの人々の案内で泉源と出会った時に始まり、幾多の困難を乗り越え温泉の礎を築いた定山の功績から、この地が「定山溪」と命名されました。

定山没後も、恵まれた自然環境と、豊富で良質な温泉とともにまちは発展し、開湯から130年にあたる平成8年（1996年）には「健康保養地宣言」を行っています。令和5年（2023年）には国道230号線石山～定山溪間の4車線拡幅工事が完了し、道路混雑の緩和や交通量の増加がみられ、札幌都心からのアクセス性が向上しました。

定山溪の沿革

年	沿革
安政5年（1858年）	松浦武四郎が山道開削のため、虻田を経て豊平まで調査をする（定山溪に一泊）
慶応2年（1866年）	美泉定山がアイヌの道案内で温泉を認め、湯治場をつくる
明治4年（1871年）	定山が岩村判官から湯守りを命じられる／東久世長官がこの地を「定山溪」と命名
明治9年（1876年）	定山が小樽～定山溪間の山道を開くため測量を開始
明治10年（1877年）	定山行方不明後、入滅
明治20年（1887年）	小金湯温泉始まる
明治24年（1891年）	定山溪に駅通所設置
明治38年（1905年）	定山溪神社創設／月見橋完成
明治40年（1907年）	定山溪発電所完成、送電を開始
大正7年（1918年）	定山溪鉄道開通
大正12年（1923年）	小樽新聞が公募した北海道三景に選ばれる
大正13年（1924年）	初のガイドブック「定山溪仙境」発行される
昭和11年（1936年）	岩戸観音堂建立
昭和24年（1949年）	支笏洞爺国立公園に指定
昭和36年（1961年）	札幌市定山溪となる（札幌市・豊平町合併）
昭和40年（1965年）	かっぱ祭り始まる／温泉街ロードヒーティング完成
昭和44年（1969年）	定山溪鉄道廃止
昭和47年（1972年）	南区定山溪となる（政令指定都市移行）／豊平峡ダム完成
昭和53年（1978年）	札幌国際スキー場オープン
平成元年（1989年）	定山溪ダム完成
平成3年（1991年）	メルヘンかっぱ像完成
平成8年（1996年）	開湯130年・健康保養地宣言をする
平成13年（2001年）	かっぱ家族の願かけ手湯、長寿と健康の足つぼの湯完成
平成15年（2003年）	足のふれあい太郎の湯完成
平成17年（2005年）	定山源泉公園完成
平成28年（2016年）	開湯150周年記念事業開催・JOZANKEI NATURE LUMINARIE スタート
令和5年（2023年）	国道230号線石山～定山溪間の4車線拡幅工事の完了
令和6年（2024年）	四季のせせらぎ二見の足湯完成

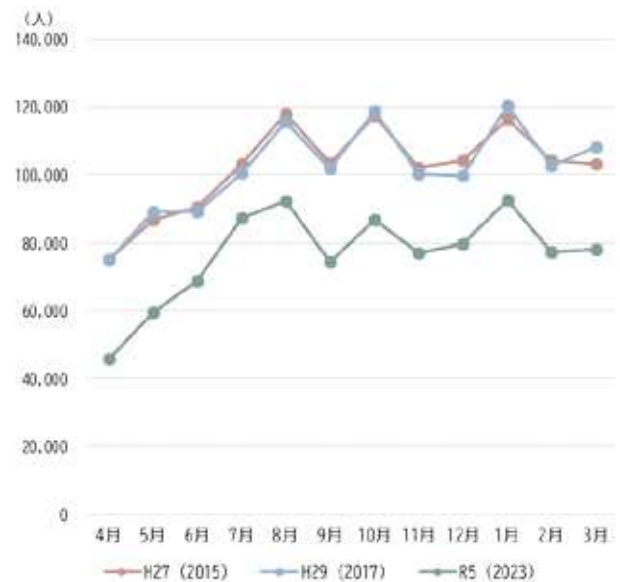
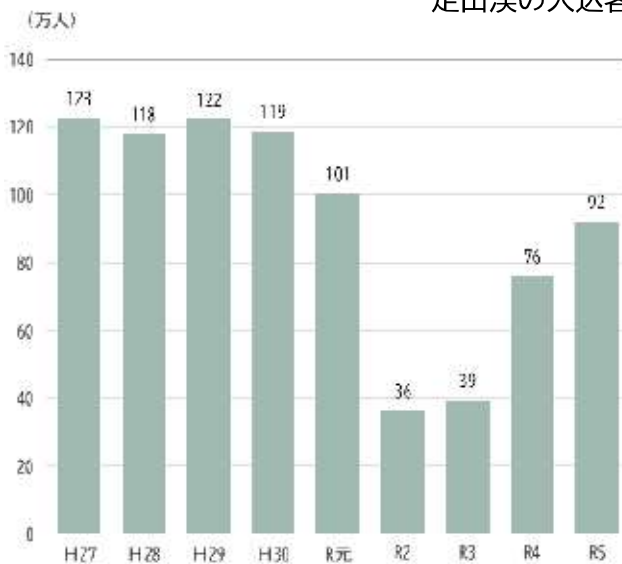
4 観光入込動向

定山溪の宿泊客数は、平成27年度（2015年度）以降横ばいで推移しており、コロナ禍前の平成29年度（2017年度）は122万人でした。その後、コロナ禍により大きく宿泊客数が落ち込みましたが、令和5年度（2023年度）は92万人まで回復しており、回復基調が明確に見られます。

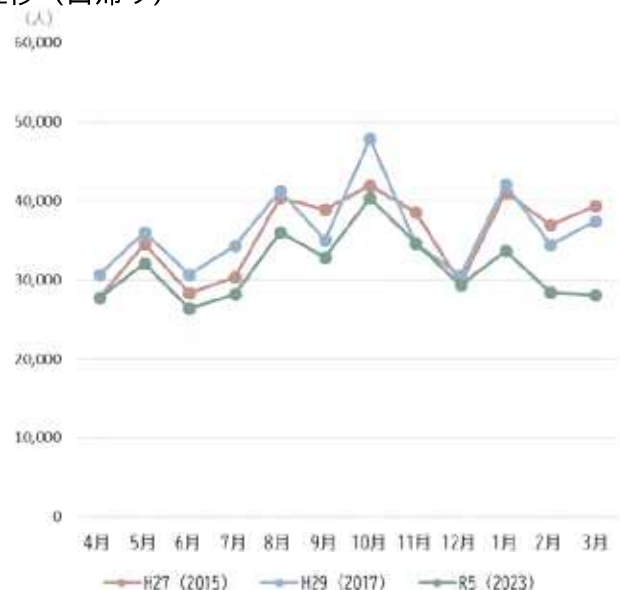
また、定山溪の日帰り客数は、コロナ禍前の平成28年度（2016年度）～平成30年度（2018年度）が44万人と、平成27年度（2015年度）以降で最も多くなっています。令和5年度（2023年度）は38万人で、平成30年度（2018年度）と比較して86%まで回復しています。

宿泊、日帰りのいずれも、月別の推移をみると、8月、10月、1月にピークが見られますが、どちらも4月に落ち込む傾向にあります。

定山溪の入込客数の推移（宿泊）



定山溪の入込客数の推移（日帰り）

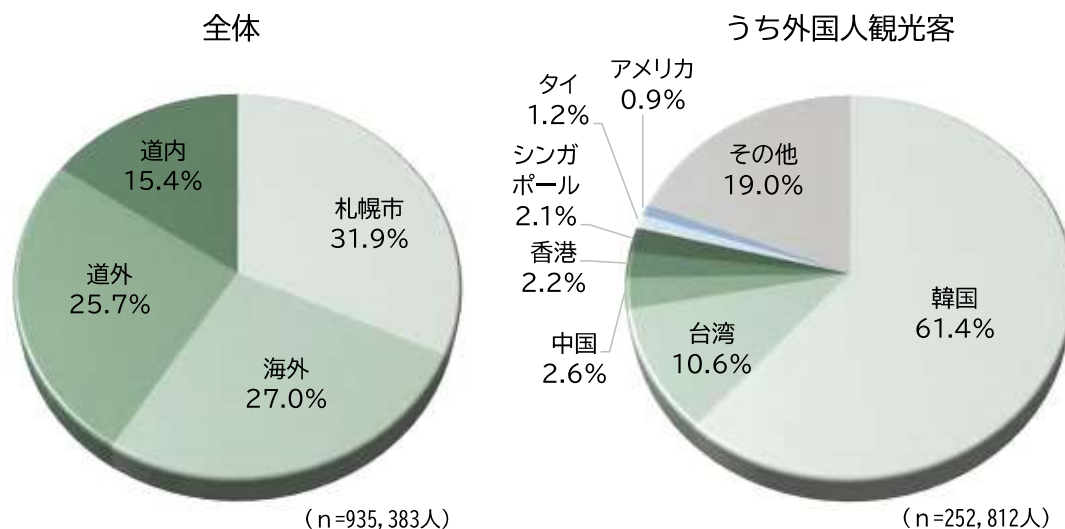


※月別の入込客数の推移は、第1次構想を策定した年度(H27)、コロナ禍前(H29)、直近(R5)のものを比較

出典：札幌市

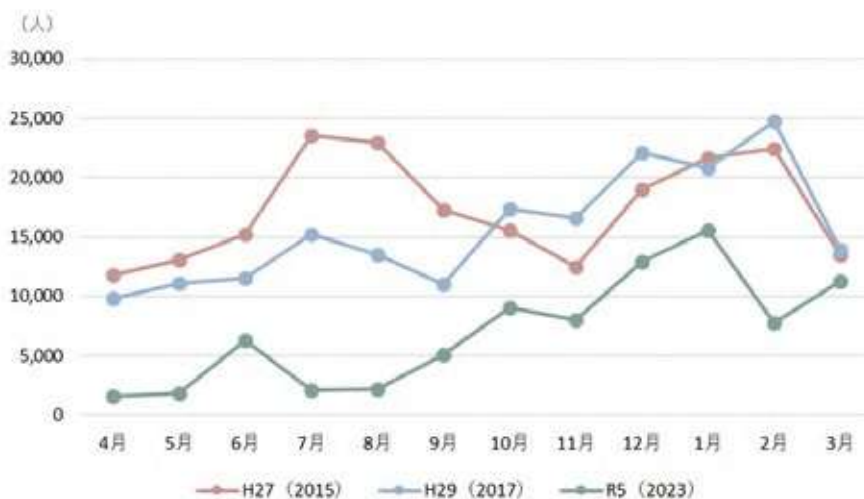
定山溪温泉旅館組合が実施した調査結果によると、令和5年度（2023年度）の定山溪の宿泊延べ人数は、札幌市民が3割と最も多く、次いで、海外、道外、道内の順となっています。定山溪を訪れる外国人観光客は、韓国が6割と最も多く、次いで台湾が1割を占めており、その他には中国、香港、シンガポール、タイ、アメリカからも来訪しています。

定山溪における延べ宿泊者数の国・地域別割合



出典：令和5年度（2023年度）定山溪温泉旅館組合調査

定山溪の外国人延べ宿泊者数の推移



※調査回答のあった宿泊施設のみを集計（H27:8割、H29:7割、R5:4割の回答）

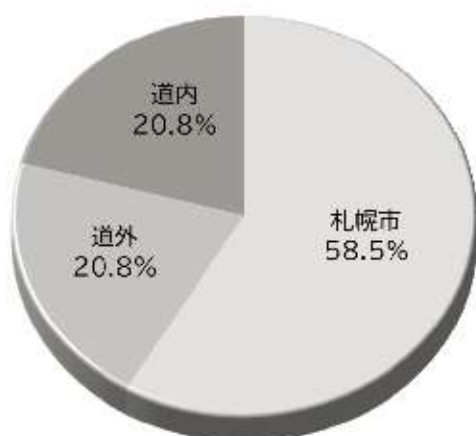
出典：札幌市

また、第1次構想策定時（平成24年度（2012年度）、平成25年度（2013年度））と令和5年度（2023年度）の宿泊者の国・地域別割合を比較すると、第1次構想策定時は日本人宿泊者の5割以上が札幌市民でしたが、令和5年度（2023年度）は5割を下回っています。

また、第1次構想策定時の外国人観光客は台湾、中国、韓国の順に多い状況でしたが、令和5年度（2023年度）は、韓国、台湾、中国の順に多い状況であり、定山溪温泉の客層が変化していることがわかります。

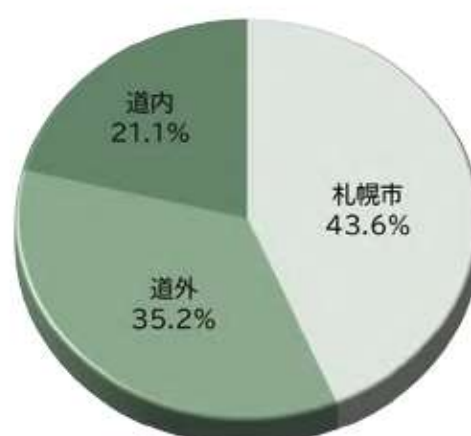
定山溪における日本人宿泊者居住地

平成24年度（2012年度）



出典：定山溪の魅力に関するアンケート調査(平成25年3月)

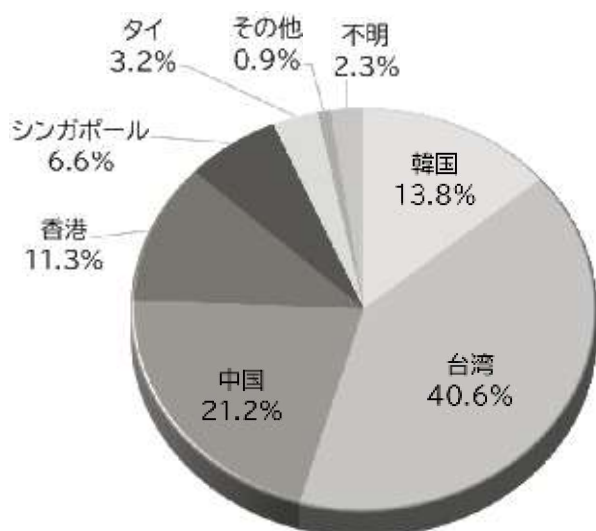
令和5年度（2023年度）



出典：令和5年度（2023年度）定山溪温泉旅館組合調査

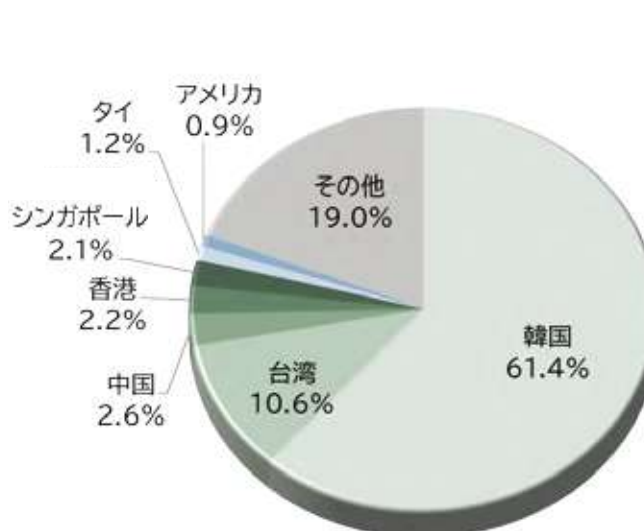
定山溪における外国人観光客（延べ宿泊者数）の割合

平成25年度（2013年度）



出典：平成25年度（2013年度）札幌市が行った宿泊施設調査

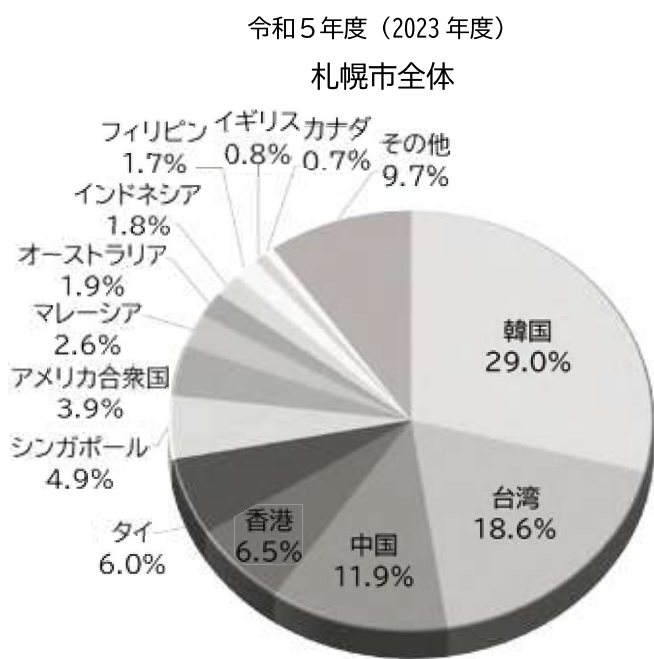
令和5年度（2023年度）※再掲



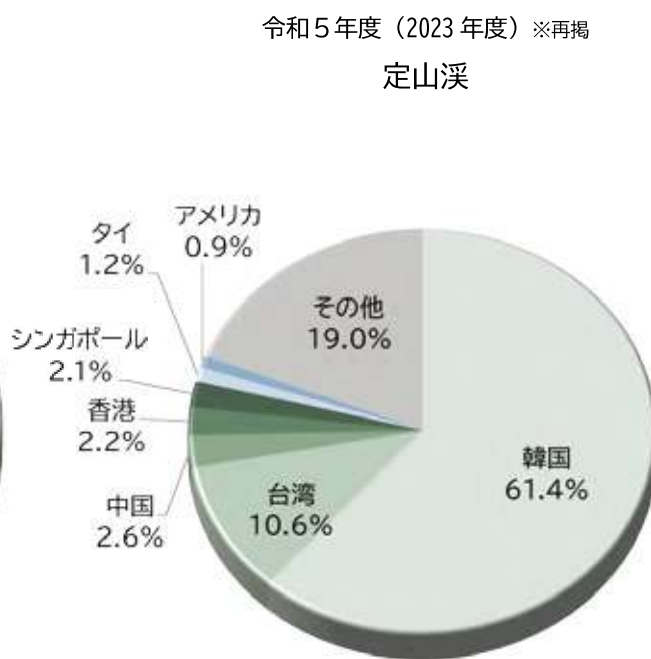
出典：令和5年度（2023年度）定山溪温泉旅館組合調査

令和5年度（2023年度）における、札幌市全体と定山溪の外国人観光客の構成を比較した場合、訪れる観光客の国籍に特徴の違いが見られます。札幌市全体では東アジアの割合が高くなっていますが、定山溪では韓国の割合が6割と特に高くなっています。

札幌市・定山溪における外国人観光客（延べ宿泊者数）の割合



出典：「札幌の観光（札幌市）」

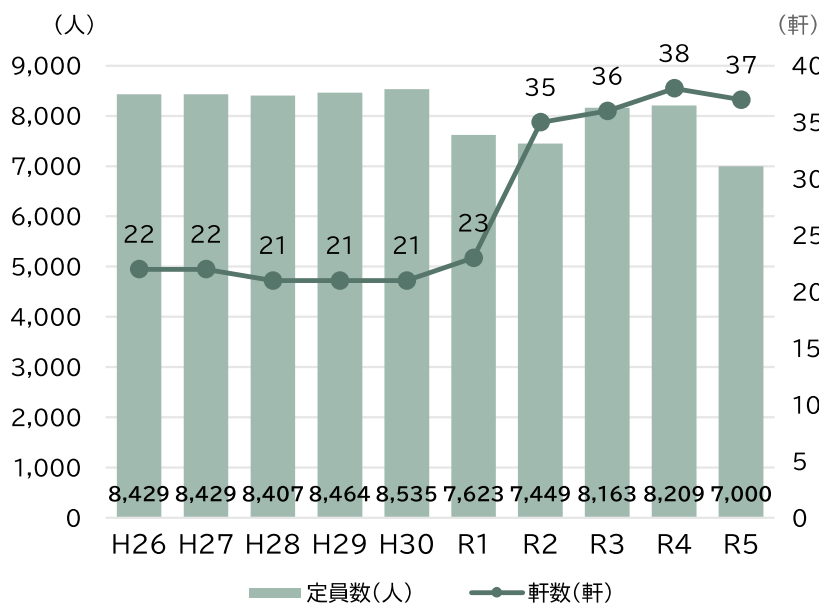


出典：令和5年度（2023年度）定山溪温泉旅館組合調査

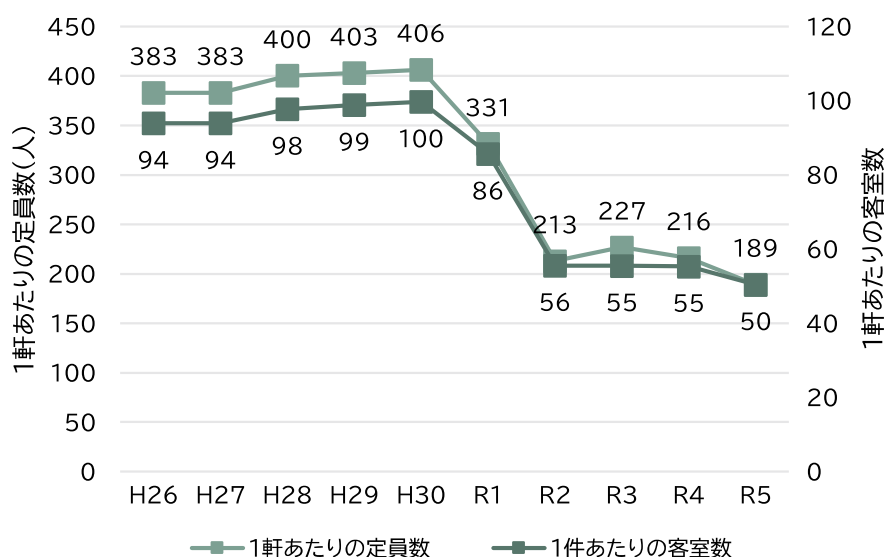
5 定山溪の宿泊施設の状況

定山溪の宿泊施設の軒数は、令和元年度（2019年度）の23軒から令和5年度（2023年度）には37軒と増加する一方、定員数は平成30年度（2018年度）の8,535人から令和5年度（2023年度）の7,000人と減少しています。また、1軒あたりの定員数・客室数は減少傾向にありますが、大型ホテルの廃業や各施設の高付加価値化*が要因であると考えられます。

定山溪の宿泊施設の軒数・定員数の推移



定山溪の宿泊施設の1軒あたりの定員数・客室数



出典：「札幌の観光（札幌市）」

* 各施設の高付加価値化：令和4年度から実施された観光庁事業（地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化）を活用した施設は11施設

6 観光資源

定山溪には、自然・文化、温泉、アクティビティ、食・土産といった様々な観光資源があります。

自然・文化

支笏洞爺国立公園内に位置する定山溪は、エリアの中央を流れる雄大な豊平川と、それを囲む緑豊かな渓谷が特徴的です。定山溪周辺には、標高1,000m前後の山が連なり、紅葉の時期になると渓谷や山々が鮮やかに色づきます。

また、定山溪には、豊平峡ダムや定山溪ダム、三笠緑地、小金湯さくらの森などの自然を生かした観光資源のほか、アイヌ民族の生活・文化を学ぶことができる施設もあります。



紅葉

温泉

定山溪には、定山溪温泉（ナトリウム塩化物泉）、小金湯温泉（単純硫黄泉）、豊平峡温泉（ナトリウム・カルシウム-炭酸水素塩・塩化物泉）、薄別温泉（カルシウム・ナトリウム-炭酸水素塩泉）という泉質が異なる4つの温泉があります。

また、令和6年（2024年）に開湯した「四季のせせらぎ 二見の足湯」を含む公共の無料足湯が3箇所と、手湯が1箇所あり、気軽に湯めぐりを楽しむことができます。



定山溪温泉

アクティビティ

定山溪の自然を生かしたアクティビティが充実し、カヌーやSUP、サイクリング、登山などを楽しむことができます。

冬季のアクティビティも充実しており、スノーシューや、雪見ラフティングなどの体験ができるほか、札幌国際スキー場では道内屈指のパウダースノーでスキーやスノーボードを楽しむことができます。



冬のラフティング

食・土産

定山溪には、カレー・そば・ラーメンをはじめとした定番の食事処や、最新のレストラン、カフェ、スイーツ店などがあります。

令和3年（2021年）以降12軒の飲食店が新たに開業しており、飲食店を目的に定山溪を訪れる日帰り客も増えて、定山溪グルメの人气が高まっています。

土産品は、温泉まんじゅう、「たまねぎすうぷ」のほか、アップルパイなども定番です。



(出典：山ノ風マチ HP)

山ノ風マチ

定山溪の観光資源MAP



① 二見公園



② 四季のせせらぎ 二見の足湯



③ 岩戸観音堂

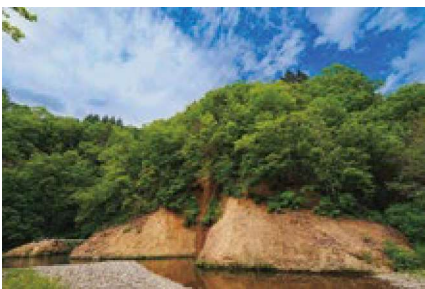


⑦ 二見吊橋



⑧ 湯の滝

凡例	
■	自然
■	温泉・足湯など
■	アクティビティ
■	土産
▼	飲食 (※:2021年以降開業)
■	その他



⑩ 赤岩の澗 (あかいわのかん)



⑬ 豊平峡ダム



⑭ かつば家族の願かけ手湯



⑮ 定山溪神社



④ 定山源泉公園



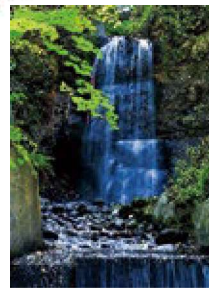
⑤ 三笠緑地



⑥ 札幌国際スキー場



⑨ 定山溪ダム



⑪ 白糸の滝



⑫ ピリカコタン



⑬ 足のふれあい太郎の湯



⑭ 舞鶴の瀬 (まいづるのとり)



⑮ 小金湯さくらの森

第1章
第2章
第3章
第4章
第5章
第6章
資料編

7 第1次構想の振り返り

第1次構想では以下に示す3つの成果指標を掲げ、次頁に示す4つの基本方針に基づき、定山溪における観光魅力アップの目指す将来像の実現に向けた取組を推進しました。

これらの成果指標の達成状況について、「温泉街の街並みに魅力があると感じる人の割合」及び「周辺観光スポットが充実していると感じる人の割合」は、第1次構想期間中の取組（P25～P27）により、いずれも基準値より上昇しており、確実に成果が出ていますが、目標値には及びませんでした。

また、「定山溪地域の延べ宿泊者数」については、目標値から50万人以上下回る結果となりましたが、その要因として、大規模宿泊施設の廃業や、旅行形態の変化に合わせた宿泊施設の高付加価値化に伴う客室数の減少などと共に、令和6年度(2024年度)はコロナ禍からの観光需要の回復途上にあたること挙げられます。

第1次構想で掲げる成果指標

成果指標	基準値※1	目標値	実績値※2
定山溪地域の延べ宿泊者数	1,197千人	1,450千人	925千人
温泉街の街並みに魅力があると感じる人の割合	42.2%	60.0%	55.9%
周辺観光スポットが充実していると感じる人の割合	39.3%	60.0%	46.6%

※1 基準値の「定山溪地域の延べ宿泊者数」は平成25年度（2013年度）、それ以外は平成24年度（2012年度）の実績値を採用。

※2 令和6年度（2024年度）実績値

第1次構想における基本方針とその方向性及び主な取組実績

基本方針及び方向性	主な取組とその実績
基本方針1 温泉街らしさにぎわいづくり	
1. 温泉施設や観光スポットなどの環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・足湯、定山源泉公園などの改修 実績：太郎の湯のバリアフリー化、四季のせせらぎ二見の足湯の整備、「定山渓温泉かわまちづくり計画」(P28参照)登録など ホテル跡地に「二見の足湯」新築(R6年度) 
	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で美しい環境を保つための温泉施設の整備 実績：二見吊橋の修繕、二見公園内のトイレ改修など
	<ul style="list-style-type: none"> ・散策路の再整備 実績：二見定山の道の整備
	<ul style="list-style-type: none"> ・サインの改修(老朽化、多言語対応など) 実績：案内板などの観光サインを再整備[H29～:16基整備]
	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史や自然などの説明サインや散策路の誘導サインの整備 実績：QRコードを活用した観光スポットナビの整備[R2～:44箇所]など <p>QRコードを掲載したサイン</p> 
	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ公園にある駐車場を活用した集客交流拠点施設の整備 実績：なし (集客交流拠点施設整備に係る経済効果など調査の実施(コロナ禍により検討中断。その間、日帰り用駐車場の不足など新たな課題が発生)) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>日帰り駐車場及び拠点施設の整備に向けた検討・実施が必要</p> </div>
2. 美しい都市型温泉観光地としての景観形成	<ul style="list-style-type: none"> ・良好な街並みや賑わいを感じる活動などにより景観的な魅力を高めるガイドラインの策定 実績：「定山渓地区景観まちづくり指針」(P29参照)の策定
	<ul style="list-style-type: none"> ・国道230号線における電線の地中化の検討 実績：国道230号線の拡幅、電線地中化・電柱抜柱

第1章

第2章






第3章

第4章

第5章

第6章

資料編

基本方針及び方向性	主な取組とその実績
	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉街における「和」の雰囲気づくり 実績：「定山溪地区景観まちづくり指針」に基づいた補助事業の活用による宿泊施設や、飲食店（例：若者などに人気の飲食店が集積する山ノ風マチエリア）の改修への支援 [H29～:47件]、二見公園トイレ改修、二見の足湯整備 老朽化した「二見公園トイレ」改修（R3年度） <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center;">  ➔  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;"> 温泉街らしさの雰囲気づくりは今後も取組が必要 </div>
3. 温泉街における賑わいの創出	<ul style="list-style-type: none"> ・空き店舗・空き地などの活用や店舗の誘致促進 実績：補助事業の活用による定山溪での新規出店 [H27～:4軒] ・周遊を促すための定山溪ぶらり手形のさらなる活用や充実 実績：かっぱんラリー [H27～:27,074人(累計参加者数)] や、かっぱん BINGO [R5～:5,473人(累計参加者数)] の実施
基本方針2 広域的なネットワーク化による新たな魅力創出	
1. 新しい魅力エリアの形成	<ul style="list-style-type: none"> ・パン屋やカフェなどの食の魅力スポットの観光資源としての活用 実績：補助事業の活用による定山溪での新規出店 [H27～:4軒]
2. 温泉街を拠点とした周辺観光資源との回遊性向上	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティビティなどの周辺観光資源の情報集約と情報発信 実績：HP や SNS による情報発信の強化、補助事業の活用によるアクティビティメニュー(例：豊平川の SUP 体験など)の新規造成・レベルアップへの支援 [R4～:11件] <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺観光資源を巡る周遊バスやレンタサイクルの検討 実績：紅葉かっぱバス運行 [H27～:42,504人(累計利用者数)] など
3. 定山溪エリアまでの交通アクセスの魅力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・直行バス「かっぱライナー」の充実 実績：かっぱライナー車体ラッピングの実施、定山溪観光協会 HP におけるアクセス手段の紹介。バス運転手不足解消の目途は立っていない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; margin-top: 10px;"> 令和5年度(2023年度)より、路線バスに住民の乗り残しが発生 バス減便などを踏まえ交通アクセスの充実は今後も取組が必要 </div>

基本方針及び方向性	主な取組とその実績
4. 年間を通じた集客イベント事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> 既存の春夏秋冬の各イベントの充実 実績：ルミナリエ [H28～:581,260人(累計来場者数)] や雪灯路 [H27～:88,513人(累計来場者数)] の実施など  <ul style="list-style-type: none"> 開湯150周年イベントやプレイベントの実施及び記念誌制作 実績：定山溪温泉歓迎塔リニューアルや記念誌の発行など
基本方針3 魅力を伝える情報発信・インフォメーションの強化	
1. 知名度アップ及びイメージ構築	<ul style="list-style-type: none"> 定山溪温泉PR隊長「かっぼん」の活用 実績：かっぼんグッズの制作・販売、各種イベント参加など  <ul style="list-style-type: none"> ツールを多言語化 実績：HP、SNS、公式パンフレットの多言語化など <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">道外や海外における知名度アップは今後も取組が必要</div>
2. 到着後のサポート	<ul style="list-style-type: none"> まち歩きや体験活動の発着地としての拠点化 実績：観光案内所移転によるまち歩きの案内増加
基本方針4 魅力アップの担い手育成とマネジメント	
1. おもてなしを支える人材育成	<ul style="list-style-type: none"> 観光案内所を活用したホテル従業員への講習や研修の実施 地域住民やホテル従業員による観光ボランティアの育成 実績：セミナー開催、定山溪検定の実施(累計受験者数：287人/合格者数：239人) 関係者が一体となった温泉街の草刈りなどの環境美化活動の推進 実績：地域における「ゴミ0」運動の実施 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">定山溪の来訪者が満足できるような景観づくりが必要</div>
2. 定山溪ファンやサポーターづくり	<ul style="list-style-type: none"> SNSなどを活用した定山溪ファンづくり 実績：Instagram、Facebook、Xを活用した情報発信など (令和6年(2024年)6月時点フォロワー： Instagram 1.6万人、Facebook 6,960人、X 7,700人)

「定山溪温泉かわまちづくり計画」について

「かわまちづくり」とは、地域の賑わい創出や、観光振興などを目的に、河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す取組のことで、国土交通省では、「かわまちづくり」支援制度を設け、地域の「かわまちづくり」の取組を推進しています。

豊平川沿いに温泉街を形成する定山溪温泉において、周辺の豊かな自然を活かした新たな魅力づくりの一環として「かわまちづくり」に取組むべく、令和5年(2023年)7月に、定山溪観光協会、学識経験者、札幌市などを構成員とする「定山溪地区(豊平川)かわまちづくり協議会」を設立し、「定山溪温泉かわまちづくり計画」を策定しました。「定山溪温泉かわまちづくり計画」は、令和6年(2024年)8月に、国土交通省の「かわまちづくり」支援制度に登録されています。

「定山溪温泉かわまちづくり計画」では、定山溪温泉街の月見橋や二見吊橋周辺における親水護岸・公園整備などのハード施策と併せて、錦橋下流から二見吊橋までの計画範囲における各種イベント開催などのソフト施策を進めます。



ハード施策例	北海道：親水護岸、管理用通路整備 札幌市：観光施設整備（足湯、公園、市道など） 観光協会：案内施設整備
ソフト施策例	北海道：都市・地域再生など利用区域の指定 札幌市：プロモーション 観光協会：イベント開催

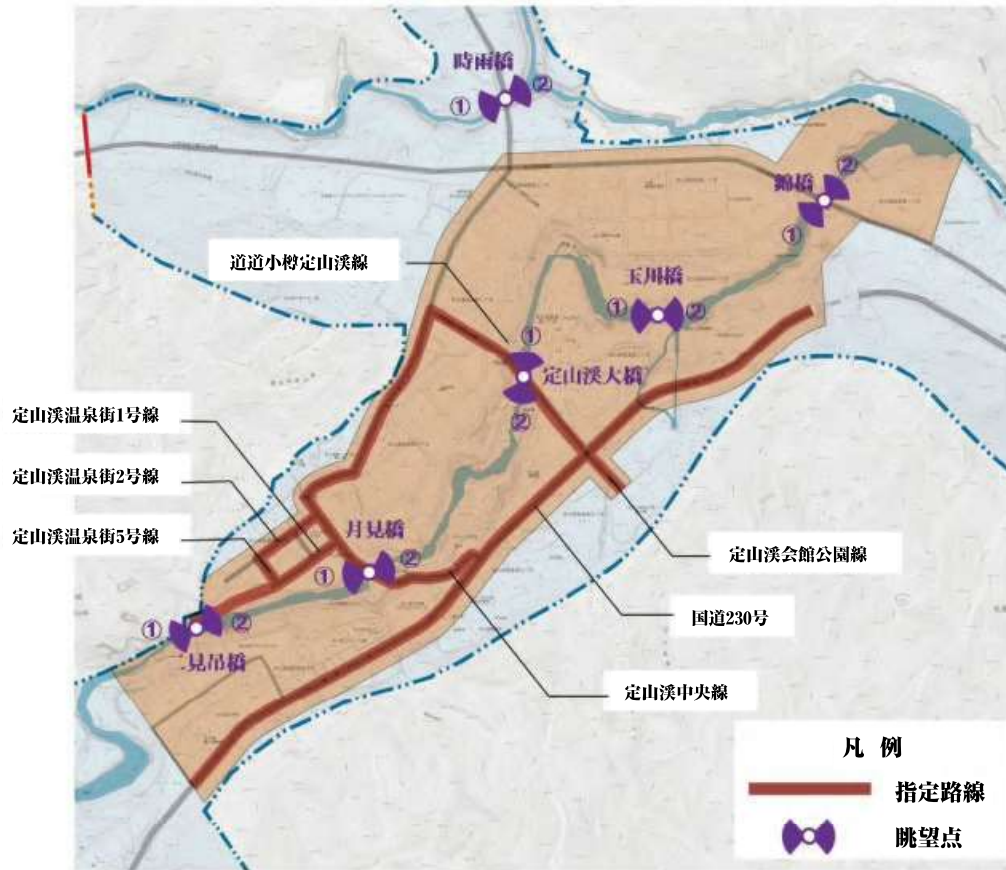


「定山溪地区景観まちづくり指針」の概要

第1次構想の基本方針1に掲げる「温泉街らしさやにぎわいづくり」を実現するため、定山溪地区の特性に応じた魅力的な景観形成を推進すべく、地域住民及び事業者などと札幌市の協働により、平成29年（2017年）6月に「定山溪地区景観まちづくり指針」を策定しました。

定山溪地区景観まちづくり指針では、温泉地として良好な景観形成に向けた取り組みを段階的に推進する「景観まちづくり推進区域（＝下図の水色のエリア）」と、温泉観光地としての魅力的な景観づくりを進める上で地域住民や事業者などが特に重要と感じている「景観誘導区域（＝下図のオレンジ色のエリア）」を定めています。

また、主に景観誘導区域のうち、特に重要となる路線を「指定路線」、定山溪の特徴である溪谷を中心とした美しい景観を一望できる場所を「眺望点」として位置づけ、魅力的な景観形成を推進しています。



【参考】「定山溪地区景観まちづくり指針」※抜粋

ここで定めた眺望点については一部歩道がない地点も含まれますが、歩行者からの眺めだけでなく、車窓からの眺めなど様々な状況を想定し、定山溪地区において地域の皆さんが景観上重要だと感じている溪谷美を守り生かすために設定したものです。

8 定山溪エリア内の事業者に対するヒアリング調査結果

温泉観光地としての定山溪の魅力と課題を把握するために、定山溪内で事業を展開している事業者に対し、ヒアリング調査を実施しました。ヒアリング調査結果の概要を以下に示します。

■ 定山溪の主な魅力

- 定山溪は札幌の都心部に近く、1時間程度で気軽にアクセスできる。
- 定山溪の温泉の泉質が良い。
- 定山溪周辺には、八剣山や札幌国際スキー場など、少し足を延ばせば多くのコンテンツがある。
- 札幌市内でありながら、支笏洞爺国立公園として自然も多く残っているというのは魅力的。

■ 定山溪における主な課題

- 全国的なバスの運転手不足が進む中、今後も定山溪と札幌市内を結ぶ交通網（バス）を維持していく必要がある。
- 各温泉宿泊施設で無料送迎バスを運行しているが、人手不足と経営面から運行を維持するのが困難である。
- 日帰り客が利用できる公共の駐車場が少ない。
- 定山溪内を巡るための交通手段がない。
- 定山溪をさらに周遊してもらうには、昼食を食べる場所が限られている。
- 温泉を可視化できるものがほぼなく、温泉地を訪れたと観光客が感じにくい。
- 定山溪温泉街の地域内の清掃を含めた景観整備が重要。どの部分を緑化するかなどを戦略的に考える必要がある。
- 多様な観光客に楽しんでもらえるよう、エリア分け（例：温泉街エリアや自然散策エリア）が必要。
- 定山溪は札幌市民を含めた道民には広く認知されているが、道外や海外にはあまり認知されていない。
- 定山溪でのアクティビティのイメージがない。自然景観が綺麗な場所だと知られていない。
- 定山溪と言えば「〇〇」というものがない。
- 定山溪で宿泊する人は、宿泊施設で完結しており、まち歩きをしていない。

9 現状の分析

第2章及び第3章1～8に記載の統計データ、ヒアリング調査結果、定山溪地区における観光客動態調査の結果、第1次構想の振り返りを基に、定山溪の現状の特徴を以下に整理しました。

① 国内人口の減少、海外市場の拡大

定山溪の宿泊客数は、コロナ禍前はほぼ横ばいで推移していましたが、今後は人口減少や高齢化が進行するとともに、国内宿泊観光旅行の参加率が低下傾向にあることから、国内需要の減少が懸念されます。

一方、国内市場とは対照的に、世界の観光市場は、長期的に拡大すると見込まれています。(P5参照)

② 客層の変化

観光市場が成熟し、個人手配の一人旅や少人数旅行が増える中、外国人観光客、特に韓国からの宿泊者が大幅に伸びており、令和5年度（2023年度）は定山溪でその割合が非常に高くなるなど、旅行の形態と観光客の構成に変化が見られます。また、札幌都心から1時間程度でアクセスできる立地、SNS 映えする豊かな自然や温泉という魅力の組み合わせが、個人旅行を好む韓国人観光客のニーズに合致しているためと考えられます。(P6、P16～P18参照)

③ 魅力的な景観形成に向けた取組

平成29年（2017年）6月に策定した「定山溪地区景観まちづくり指針」に基づき、施設整備時などにおける景観への配慮が行われています。

しかし、定山溪地区観光客動態調査からも、廃業したホテルの景観に関する意見などが多数あり、現状では目標が達成できておらず取組は十分ではありません。(P24参照)

④ 滞在時間の短さ

定山溪への来訪者の多くは、札幌都心などから訪れた日帰り客または1泊のみの宿泊客です。

また、宿泊客の多くは、夕方に到着して、翌朝には出発する行動が多いほか、宿泊施設以外で行動することが少ない傾向にあります。

定山溪エリアにおける滞在時間



N=642

出典：「令和6年度（秋・冬）定山溪地区観光客動態調査（札幌市）」

⑤ 定山溪の顔となるような特徴的なイメージの弱さ

定山溪には、草津温泉の「湯畑」や、登別温泉の「地獄谷」、「鬼」というようなシンボリックなものはありませんが、多種多様な魅力的なスポットやアクティビティコンテンツなどがあります。(P30参照)

⑥ 定山溪エリアとしての誘客戦略

定山溪には施設の規模や価格帯も含めて多種多様な宿泊施設が立地しています。

また、近年、カフェやスイーツ店、パン屋などの若者に人気の飲食店の新規出店や、アクティビティ事業者の進出などにより、楽しみ方の選択肢が増えてきており、幅広い客層が来訪しています。(P26参照)

一方で、定山溪エリアとしてターゲットを絞った戦略を立てることの難しさもあります。

⑦ 定山溪までの交通アクセス

定山溪を訪れる観光客の移動手段は、約半数が自家用車又はオートバイ、約3割が路線バスなど（路線バス及びかっぱライナー）、約1割が宿泊施設の送迎バスとなっています。

路線バスなどは近年、運転手不足などにより運行本数が減少しています。コロナ禍後の観光客数の増加や個人旅行の増加もあり、時期や路線によっては、非常に混雑する場合があります。また、宿泊施設が運行する送迎バスについても、運転手不足などから維持が困難と考える宿泊施設もあります。(P11～P13参照)

⑧ 定山溪エリア内の交通手段及び駐車場の不足

支笏洞爺国立公園に立地し豊かな自然に囲まれている定山溪では、カヌーや SUP、ラフティング、登山、トレッキング、札幌国際スキー場でのスキーなど、四季を通じて様々なアクティビティを楽しむことができます。

一方、定山溪温泉街から札幌国際スキー場や豊平峡ダムなどの周辺の観光拠点を結ぶ交通手段が限られています。また、日帰り客や、宿泊前後の方が利用できる駐車場が不足しています。(P11～P13参照)